

# 皇學館 学園報

## 第100号 令和6年5月



■注目記事	2面
ニュージーランド、マレーシアで語学研修を実施	
令和5年度卒業生就職状況 新任教職員紹介	3面
国際学術研究会 「未来共創フォーラム」を開催	4面
皇學館学園報創刊100号記念特集	5面
中高で入学式・オリエンテーションを実施	6面
人事異動	7面
【シリーズ】皇學館宝箱 Vol.2 「豊臣秀吉朱印状(折紙)」	8面
【特別企画】新入生決意の一字 【新コーナー】部活動・同好会ファイル fileNo.1「雅楽部」	

発行・編集 学校法人皇學館 企画部  
TEL 0596-22-6496・8600

大 学	大学院 文学部 教育学部 専攻科 現代日本社会学部
-----	------------------------------

〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704  
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校  
三重県伊勢市楠部町138  
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)  
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

## 令和6年度皇學館大学入学式

# 616名が入学

令和6年度皇學館大学入学式が4月3日、本学記念講堂で挙行政、大学院13名、神道学専攻科10名、学部生587名、編入学生6名の計616名が一堂に会した。同月8日、9日には新入生神宮参拝が5年ぶりに行われ、入学を許可された喜びを奉告した。



本学の歴史や伝統、大切に受け継がれてきた建学の精神について説く河野学長

## 「伝統を受け継ぎながらも新しい皇學館の創生を」

4月3日午前10時、本学記念講堂において皇學館大学入学式が挙行された。国歌斉唱、令旨奉読に続く学長式辞で河野訓学長は「学修者である学生の皆さんが『何を学び、身に付けることができたのか』が大学教育に問われている」と語り、生涯にわたり学び続ける姿勢を在学中に培ってほしいと説いた。また、本学が近隣の自治体や企業等と産官学連携を結び、諸課題の解決に一体となつて挑戦していることに触れ、地域との交流活動を通じて伊勢志摩地域や故郷の市町村を支えていくとの志を持つ人材に育ってほしいと期待を込めた。さらに「4年間の学びを通して自分自身の固有の価値と使命とは何



大学院、専攻科及び各学部の代表者が宣誓

かを探求し、学びの成果を社会に生かす道を見出してください」と続け、新しい仲間や教員との瑞々しい出会いを大切にして、伝統を受け継ぎながらも新しい皇學館を創生してもらいたいと激励した。

小串和夫理事長は告辞で「ここに神宮のご鎮座地は、『元々本々』はじめをはじめとし、本を本とするところ。諸君は必ずや日本人の自覚に目覚めてくださると確信して止みません」と力強く語り、「これからの4年は、長いようで、また短い期間であります。精華寮寮歌の如く、「世の喧騒を他所にし、理想に進む若人」としてそれぞれが目指すところの学問に専念し、併せて心を練り身体も鍛えてください」と述べた。最後に「慎之莫怠」との言葉を引用。「常に謙虚な姿勢で日々着実、積極的に歩みを進め、省みて悔いのない青春を」と新たな一歩を踏み出した新入生を元気づけた。

## 5年ぶりの入学奉告参拝

今年度は入学奉告参拝が5年ぶりに再開され、2日間に分かれ行われた。8日に神道学専攻科・国文学科・専攻科・現代日本社会学科、9日に教育学科・国史学科・コミュニケーション学科、また、大学院生は各専攻の学科に参加した。学生たちは手水舎で手や口を清めると、整列して参進。外宮では正宮を参拝した後に多賀宮を参拝、内宮では御垣内参拝の後、荒祭宮を参拝し、大学入学を奉告した。8日は小雨が降る中での参拝と



玉砂利を踏みしめ、神域を肅々と進む学生たち。外宮(上)、内宮(下)

なったが、9日は朝方の大雨も止み、無事に両宮参拝が行われた。学生からは「事前にあつた指導のおかげで無事に参拝することができた。実際に体験しないとわからないことも多いので、今回、こうした機会を設けていただき良かった」といった声が聞かれた。

## 大学基準協会の大学基準に「適合」と認定

本学では令和5年度、文部科学大臣の認証を受けた評価機関である「公益財団法人大学基準協会」において大学評価(認証評価)を受け、審査の結果、令和6年3月27日付で同協会の大学基準に「適合」と認定された。



多様な社会連携・社会貢献活動として、連携先を伊勢志摩地域全域に加え、それ以外の三重県内の市町にも拡大し、地域全体の課題の解決に寄与している。また、新たな活動分野を「こども・子育て・教育」等にも展開するなど、従来の活動を拡大・発展させて展開していく。

『皇學館学園報』が発刊されたのは平成16年9月10日、それまでの「K-らいふ」に代わる学園広報の媒体として出発した。以来、今回で100号を迎えることとなり、20年にわたつて学園の出来事と人々の活躍を伝えてきた▼小欄「倉田山春秋」は第20号(平成21年5月25日)からである。取り上げられる話題は様々で、記事に関係するものももちろん、倉田山の日常や神宮のお祭り、社会の出来事、学術エッセイなど多岐にわたる▼ちなみに小欄が始まつてから99号までのテーマを分類してみると、最も多いのが、教育プログラムに関係するものが27件で全体の34%を占める。次いで季節に寄せたものが15件などとなつていた▼こうして振り返ってみると教育内容の充実が強い関心を持つて執筆していたことがわかる▼一方で、学園報と銘打ちながら、皇學館高等学校・中学校に関するコラムはわずかに2件。いずれも周年事業に関するものだったのは反省すべき点であろう▼200号までにどのような話題を451文字(記号・句読点を含む)で描くことができるのか。今から楽しみである。乞うご期待。



# Global グローバル

## 天皇皇后両陛下に 岡野友彦教授が御進講

令和6年5月10日、皇居吹上御所において、天皇皇后両陛下に第99代後亀山天皇の御事績について御進講させて頂く栄誉を得ました。後亀山天皇は弘和3年(1383)、南朝の天皇として即位。元中9年(1392)、北朝の後小松天皇に譲位され、半世紀以上続いた南北朝の内乱を終結に導かれた天皇で、応永31年(1424)4月12日、75歳で崩御されました。本年5月19日(旧暦4月12日)が、その崩御から満600年となることから、皇居皇霊殿において「後亀山天皇六百年式年祭」が斎行されるに当たり、南北朝時代を専門とする岡野に白羽の矢が立ったようです。なお、5月13日には赤坂御所において、秋篠宮皇嗣同妃両殿下にも同様の御進講をさせて頂きました。御進講後、両陛下・両殿下よりそれぞれ皇學館大学にお心をかけてくださる言葉を賜り、畏れ多いことでした。本学としても名誉なことと存じ、ここにご報告申し上げます。



文学部教授 岡野友彦

## 令和6年度入試状況

令和6年度入試では、少子化の影響を受けた結果にはなったが、昨年と比べ神道学科と現代日本社会学科では受験者増となり、神道学科とコミュニケーション学科では入学者増となった。また入試種別では、学校推薦型選抜が受験者増となり、進路決定の早期化が顕著になっている。

また、理系人材の需要が高まる中、令和7年4月に、中学校・高等学校の『理科教員免許課程』の設置を予定し、現在申請中である。一般選抜入試から募集を開始する予定である。入試の詳細については、後日発行の「令和7年度学生募集要項」でご確認いただきたい。

学部・学科	募集人数	志願者	合格者	競争率
神道学科	60	149	108	1.4
国文学科	80	127	104	1.2
国史学科	80	152	125	1.2
コミュニケーション学科	80	152	131	1.2
文学部	300	580	468	1.2
教育学部	200	780	527	1.5
現代日本社会学部	120	270	233	1.1
大学計	620	1630	1228	1.3

## 「皇學館大学 大学生テレビ局」 が開設10周年



学生独自の視点で地元の魅力を発信してきた「皇學館大学 大学生テレビ局」が今年4月で開設10周年を迎えた。ZTV伊勢放送局の五十嵐正道さんの指導のもと、企画から撮影、取材、編集まで制作に関わるすべてを学生たちが行う。「地域で頑張る人を映像で応援する」をモットーに、これまでに手掛けたドキュメンタリー番組は110本超。毎月ZTVで放映されており、県外のZTV支局やケーブルテレビを含めると、現在、放送エリアにおける総配信世帯は50万世帯を超える。局長を務める山下真緒さん(現日4)は、「自分たちがここまで来れたのは先輩方や取材に協力して下さった地域の皆さんのおかげ。後輩たちにもこの思いを伝えていけるよう、地域の魅力を発信できる映像制作に取り組んでいきます」と語った。

## ワイカト大学語学研修プログラム

		2月10日(土)	2月11日(日)		
		到着	フリータイム		
Week 1	2月12日(月)	2月13日(火)	2月14日(水)	2月15日(木)	2月16日(金)
9:00-12:00	レセプション、オリエンテーション、キャンパスツアーなど	一般英語	一般英語	一般英語	一般英語
13:00-15:00		一般英語	一般英語	一般英語	フリータイム
Week 2	2月19日(日)	2月20日(月)	2月21日(火)	2月22日(水)	2月23日(木)
9:00-12:00		一般英語	一般英語	一般英語	一般英語
13:00-15:00		一般英語	一般英語	一般英語	フリータイム
Week 3	2月26日(日)	2月27日(月)	2月28日(火)	2月29日(水)	3月1日(木)
9:00-12:00		一般英語	一般英語	一般英語	一般英語
13:00-15:00		一般英語	一般英語	一般英語	フリータイム

出発前は緊張や不安を感じていたが、心配していた入国審査もスムーズに行え、たくさんの友人ができた。話す西山さん。常に笑顔でいることが大切。休日や放課後はなるべく外出した方がいい。学生ツアーに参加すればサマーアクティビティを通して現地の人と話す機会が増えるので、すごく勉強になる。また、外食は絶対にするべき。英語で注文や会計をしたり、メニュー表を見たりと日常で使える英語をたくさん学べる。アドバイザーする。将来は教員を目指しており、「この経験で得た学びを子どもたちに伝えたい」と語った。

外出して現地生活を満喫  
英語で話す自信が付いた

2月10日から3月2日にかけての約3週間、ニュージーランド・ワイカト大学での春期研修に9名が参加した。

リスニング能力を向上させたかったと語る西山侑我さん(教育3年※研修時は2年)は、授業は発音練習やプ



研修最終日にクラスメイトと撮影

リーも親切で、「日本食が恋しくなる」と思っていたが、ホストマザーの手料理はどれもおいしく全然飽きなかった。苦手な食べ物を伝えると配慮してくれた」とホストファミリーと気兼ねなくコミュニケーションを取ることができたと言った。

## ワイカト大学 春期語学研修

令和6年2月10日～3月2日 参加者9名

## アジア・パシフィック大学語学研修プログラム

							2月25日(日)
							到着
Week 1	2月26日(月)	2月27日(火)	2月28日(水)	2月29日(木)	3月1日(金)	3月2日(土)	3月3日(日)
	オリエンテーション、プレースメントテスト	クラス	クラス	クラス	クラス	プラジャヤモスク、王宮、KLCC水族館	スプラッシュマニアウォーターパーク
Week 2	3月4日(日)	3月5日(月)	3月6日(火)	3月7日(水)	3月8日(木)	3月9日(金)	3月10日(土)
	クラス	クラス	クラス	クラス	クラス	パター洞窟、中央市場、中華街ツアー	フリータイム
Week 3	3月11日(日)	3月12日(月)	3月13日(火)	3月14日(水)	3月15日(木)	3月16日(金)	3月17日(土)
	クラス	クラス	クラス	クラス	クラス	サンウェイラグーン、テーマパーク	フリータイム
Week 4	3月18日(日)	3月19日(月)	3月20日(火)	3月21日(水)	3月22日(木)	3月23日(金)	
	クラス	クラス	試験	試験	試験結果日	帰国	

失敗を恐れず挑戦することが成長につながる

マレーシアのアジア・パシフィック大学(APU)は学生の6割を留学生が占める国際色豊かなキャンパスだ。鈴木結子さん(コミュ3年※研修時は2年)は父親の影響で幼少期から洋画や音楽に触れるうち英語に興味があり、将来英語を活用する職に就きたいと参加を決めた。

「クラスメイトと一緒に、あるテーマについてキャンパス内の学生にインタビューを行い、集めたデータをマにプレゼンする授業が一番役に立った」と話す鈴木さん。質問するだけでなく、相手の答えに反応したり相槌を打ったりしたこと、英語によるコミュニケーションに自信が持てるようになったという。「APUのスタッフが連れて行ってくれたツアーではモスクや水族館、テーマパークなどを巡り充実した週末を過ごせた。初めての海外で不安もあったが、行かなければよかったの思いは1ミリもない」と笑顔で語る鈴木さん。「積極的に英語を話す必要がある環境の中で失敗を恐れなくなった。挑戦こそが自信につながると思えるようになってきた。何事においてもやるかやらないか迷ったときは、勇気を出してやってみよう」と精神的な成長をも実感できる研修になった。

マレーシアのアジア・パシフィック大学(APU)は学生の6割を留学生が占める国際色豊かなキャンパスだ。鈴木結子さん(コミュ3年※研修時は2年)は父親の影響で幼少期から洋画や音楽に触れるうち英語に興味があり、将来英語を活用する職に就きたいと参加を決めた。

## 失敗を恐れず挑戦することが成長につながる

## アジア・パシフィック大学 春期語学研修

2月25日～3月23日 参加者8名



研修中に皆で訪れたペトロナスタウンタワー

## ニュージーランド 語学研修プログラム

		3月20日(土)	3月21日(日)	3月22日(月)	3月23日(火)	3月24日(水)
		出国(セントレア→インチョン空港→オークランド)	オークランド空港着、研修地着、オリエンテーション	英語クラス(サバイバルスキル)現地小学校交流	ホストファミリーと過ごす	ホストファミリーと過ごす
3月25日(日)	3月26日(月)	3月27日(火)	3月28日(水)	3月29日(木)		
英語クラス(クワイアナ)現地高校交流	英語クラス(マオリ文化)現地高校交流	オークランド市内見学	出発(オークランド空港→インチョン空港)	帰国(インチョン空港→セントレア)		



マティゴブライマリースクールとの交流の様子



お世話になったホストファミリーと

語学仲間がたくさんでき  
積極性も身に付いた

皇學館中学校・高等学校とニュージーランド語学研修が実施された。悪天候による前便の機材トラブルで予定より1時間遅れたものの、3月21日、無事ニュージーランド・オークランド空港に到着。現地では一行を青空とホストファミリーが温かく出迎えてくれた。

研修先の学校生徒と交流し、語学だけでなくマオリ文化について学んだ参加者たち。オークランド大学キャンパスツアーやダウンタウン散策、工芸体験のほか、マヌカハニーを食したりホストファミリーとパーベキューを楽しんだり、密度の濃い時間を過ごした。天白彩那さん(高校2年※研修時は高校1年)は「今まで話したことのない仲間が増えた。せつかく参加したのだから自分なりに頑張つて、失敗を怖がらず積極的に話しかけることができた」と収穫を語った。伊東亜里紗さん(高校1年※研修時は中学3年)は「小学生くらいの子が交通整理をしていて衝撃を受けた。ニュージーランドでは幼い子が自立しており、私も自分の頭で考え、自分の意志で行動できるようになりたいと強く思った」と話した。

語学仲間がたくさんでき  
積極性も身に付いた

皇學館中学校・高等学校とニュージーランド語学研修が実施された。悪天候による前便の機材トラブルで予定より1時間遅れたものの、3月21日、無事ニュージーランド・オークランド空港に到着。現地では一行を青空とホストファミリーが温かく出迎えてくれた。

## 皇學館中学校・高等学校 ニュージーランド語学研修

3月20日～29日 参加者28名

# 就職決定率99.2%

## 令和5年度卒業生就職状況

令和5年度学部卒業生672名(9月卒業生を含む)の就職状況は、就職希望者598名のうち593名の就職が決定し、就職希望者に対する就職率は99.2%となった。

※学科別就職率、分野別就職者については別表参照

### 神社関係 64名が奉職(自家神社含む、学部のみ)

求人神社数177社318名(男子202名、女子71名、男)となつた。専攻科等の学部以外は男子11名・女子4名であった。

### 教職関係 三重県小学校・合格者占有率は県内大学で12年連続トップ

小・中・高・特支の教員に119名(正規/公立68名、講師40名、幼稚園・保育園へは37名(正規/公立10名、臨時1名)が就職した。三重県小学校に12年連続、県内大学でトップを堅持している。

### 公務員関係 過去最高実績の昨年度と同じ計49名が採用

国家公務員3名(刑務官(1)・自衛官(2))、地方公務員46名(神奈川(福祉)、三重(警察事務)(2)・高山市役所(岐阜県)・いなべ市役所・桑名市役所(2)・鈴鹿市役所(2)・津市役所(2)・松阪市役所(3)・伊勢市役所(2)・鳥羽市役所・明和町役場・多気町役場・大樹町役場(北海道)・南木曾町役場(長野県)・警視庁・愛知県警・三重県警(12)・大阪府警(5)・京都府警・兵庫県警(2)・佐賀県警・東京消防庁・紀勢地区消防組合)が採用された。

### 企業等関係 多彩な業界に328名が決定

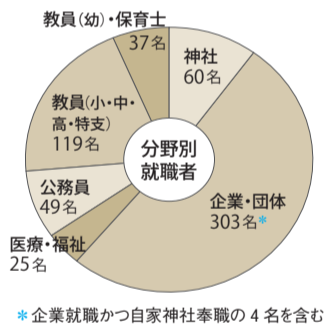
業界別では、卸売・小売業26.9%、建設・製造業14.3%、情報通信業8.5%、金融・保険業6.4%、運輸・郵便業6.1%、不動産・賃貸業4.0%、教育・学習支援業4.0%、は7.6%で25名が決定した。

電気・熱供給・水道業0.9%、サービス業・その他21.3%で計303名(企業就職かつ自家神社奉職の4名を含む)が決定した。また、医療・福祉関係は7.6%で25名が決定した。

### 企業の採用意欲は堅調 就職率は昨年度並の高水準を維持

令和5年度卒の就職活動における企業の採用意欲は、構造的な人手不足もあり堅調だったと言える。この状況下、学

学 科	卒業生	就職希望者		就職者	就職率 C/B
		A	B		
神 道	男	55	50	50	100.0%
	女	23	22	22	100.0%
計	78	72	72	100.0%	
国 文	男	33	29	29	100.0%
	女	45	38	38	100.0%
計	78	67	67	100.0%	
国 史	男	60	47	45	95.7%
	女	20	20	20	100.0%
計	80	67	65	97.0%	
コミュ	男	43	35	34	97.1%
	女	48	38	38	100.0%
計	91	73	72	98.6%	
教 育	男	85	72	71	98.6%
	女	131	122	121	99.2%
計	216	194	192	99.0%	
現 日	男	105	101	101	100.0%
	女	24	24	24	100.0%
計	129	125	125	100.0%	
合 計	男	381	334	330	98.8%
	女	291	264	263	99.6%
計	672	598	593	99.2%	



## 令和6年度 CLL活動が始まります

CLL活動は伊勢志摩圏域を中心とする三重県内の地域課題について学ぶ学修プログラム。令和6年度は26のプロジェクトが予定されています。

### 令和6年度 CLL活動 (令和6年5月現在)

- だれもが働きやすい企業を表彰! ~男女共同参画キラリ☆プロジェクト~
- TMKミライデザインプロジェクト (玉城町明るい未来推進プロジェクト)
- 「Gift of Ise」プロデュースプロジェクト ~伊勢ぶちたび~ EVモビリティを活用市内周遊促進事業
- リニアインパクト最大化プロジェクト ~2037年に三重県が変わります!~
- 大学生による「大学生向けごみ分別啓発活動!!」
- フードロスなくせ! いちごスイーツプロジェクト ~規格外いちご「かおり野」を使用したお菓子のプロデュース~
- 皇學館オリジナルグッズ制作プロジェクト
- 度会カフェリョクプロジェクト
- 鳥羽なかもち(仲間ち)で地域活性化に取り組もう!
- 宇治山田駅前活性化創出事業
- 若者の投票率UP! プロジェクト
- ぱりっ子会議から市政への提言プロジェクト
- ウツボで地産地消プロジェクト
- インクルーシブスポーツ推進プロジェクト ~共生社会の実現を目指して~
- 「広報いせ」特集記事制作プロジェクト
- 三重の魅力を発信! スイーツプロジェクト
- 廃業する農家と廃棄するいちごをすくえ! いちごのみかたプロジェクト
- 皇學館大学学生広報隊
- 消防団の新たな役割発見プロジェクト
- いせ移住PR支援プロジェクト
- 産学官連携日本酒プロジェクト
- 地域活性化サポーターズFIT
- CLL活動運営学生スタッフ
- 地域に貢献する食農教育のイベントプランナー NEW
- 伊勢のまちづくりに若者の声を反映! 新しい仕組みを創ろう! NEW

## 保護者対象就職講演会・説明会 開催のお知らせ

令和6年10月6日(日) 13:00~15:30  
場所●皇學館大学 6・7号館

**就職講演会 13:00~14:30**  
専門の講師を招き、最新の就職活動の動向と保護者としてのサポートのヒントを解説します。

**進路別就職説明会 14:40~15:30**  
神社、企業・官公庁、教員・保育士の別に説明します。  
※詳細は別途お知らせします。

## 新任教職員紹介

この春から新たに加わった教職員の方々を紹介します

- ①出身地・経歴等 ②趣味・特技等 ③座右の銘 ④一言メッセージ

### 皇學館大学

神道学科助教

田井 健治

- 岡山県◆皇學館大学大学院文学研究科博士前期課程修了、結城神社権禰宜
- 書道
- 拉雪堂於猶怠 怒繩錘之不勤
- 一步一步皆さまと共に成長していきたいと思ひます。

コミュニケーション学科准教授

Cheryl DiCello

- アメリカ合衆国◆ハワイマノア校大学院第二言語習得研究学部修了
- カラオケ、料理、読書、旅行
- 七転び八起き
- 学修者と共に学びながら視野を広げる活動を楽しみます。

コミュニケーション学科助教

栗林 梓

- 長野県◆関西大学文学部卒、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了
- コーヒーと甘いものが好きです。
- コツコツ
- 研究も教育も日々精進してまいります。

教育学科特命教授

濱谷 義弘

- 宮城県◆岡山理科大学大学院理学研究科応用数学専攻博士課程修了、理学博士
- 将棋、オーディオ(真空管アンプ)
- 遊化
- ③④は大乗の教えではなく、「よく遊び、よく遊んで化ける」の意です。

研究開発推進センター史料編纂所助手

京泉 勇平

- 愛知県◆元大神社広報室研究員
- 蛸の唐揚げが好きです。
- 清明・正直
- 私利私欲なく、謙虚に生きたいものです。

監査室室長

中井 清孝

- 三重県◆早稲田大学理工学部卒
- 散歩
- トライアンドエラー
- 皆さまのお力をお借りし、監査業務を通じて、本学のリスク・コストの最適化を図ってまいります。

総務部総務担当書記補

古尾 洸介

- 三重県◆皇學館大学現代日本社会学部卒
- プロ野球観戦、読書、スポーツ、ラジオを聴く等
- 人間は考える葦である
- 日々努力することを忘れず、本学、学生のために自分らしく頑張ります。

学生支援部教務担当

松田 知華

- 三重県◆皇學館大学教育学部卒
- ゲーム
- 目配り、気配り、心配り
- 初心を忘れず、何事も前向きに取り組んでいきたいと思ひます。

学生支援部学生担当事務嘱託 (クラブ合宿所夜間管理人)

瀧川 力

- 大阪府◆皇學館大学現代日本社会学部卒
- ドラマ・映画を観ること
- 学生たちが充実した生活を送れるようにサポートしていきます。

学生支援部学生担当事務嘱託 (クラブ合宿所夜間管理人)

町方 昂暉

- 神奈川県◆順天堂大学スポーツ健康科学部卒
- スポーツ観戦
- 不屈
- 学生をしっかりサポートできるように頑張ります。よろしくお願ひします。

### 皇學館高等学校

養護助教諭

永江 瑠藍

- 三重県◆鈴鹿大学こども教育学部卒
- 音楽鑑賞、スポーツ観戦
- 天真爛漫
- 明るく元気に生徒の皆さんをサポートしていきます。

### 皇學館高等学校がDXハイスクールに指定

皇學館高等学校がデジタル人材の育成と文理横断型の探究学習に取り組む拠点として、文部科学省より令和6年度「DX(デジタルトランスフォーメーション)ハイスクール」に指定された。変わりゆく今後の社会で活躍していくためには最先端の知識だけでなく、それらを使いこなす多様な状況に対応していく力が求められる。本校では株式会社フォーバルと連携し、これからの社会で不可欠なDXスキルの授業をプログラム化し、実践していく。さらにITの利活用空間として、新たに大スクリーンを備えた「皇學館 FutureLab」を設置し、主体的かつ協働的に取り組むことのできるDX人材の育成をめざす。



第2部終了後の集合写真。登壇者の大野教授(前列左から4人目)、ステファン教授(同5人目)、村瀬教授(同6人目)



## 「未来共創フォーラム」を開催

### 国際学術研究会

4月4日、神道博物館にて『古代の叡智から新たな学問へー混沌とした自然における目に見えない学びの本質』と題した「未来共創フォーラム」を開催した。

調和と循環に根ざした「神道精神」、日本文化と調和を遂げた「仏教哲学」、これら古代の叡智を基盤に、混沌とした時代に求められる失敗からの学びと癒しの本質を、国内外の多様な学術分野の研究者、参加者などが対話的に探究した。参加者は中高生や学部生など35名。フォーラムは2部構成で行われ、第1部の冒頭で河野訓学長が天文学・昆虫学への好奇心豊かな少年期や仏教哲学を学び始める青年期の自らの体験を、文理融合の原点と振り返った。

次いで登壇したチューリッヒ大学のステファン・ブッチ教授(精神医学は、トム・センスキーと共に開発した病気の自己診断ツールについて講演を行った。特に、病気を文脈依存的に捉え直すこと、病気の改善と苦痛の低減が顕著に見られ、その点で、従来までの機械論的な人間観が破綻すると力説した。大野照文特別招聘教授(古生物学・博物学)は、人類が進化してきたプロセスを①数億年前の動物の祖先の知恵(行動的知恵)、②数百万

年前のヒトの祖先の知恵(情動的知恵)、③現代の私たち人類の知恵(俯瞰的知恵)と3段階に分け、独自の教育論を展開。理科教育では好奇心や自己効力感といった②の情動的知恵を子どもの中に育む必要がある、そのためには失敗体験を文脈依存的に捉え直すことで、学習意欲の向上・失敗からの学びが期待できると指摘した。

村瀬雅俊特命教授(教育学部)は以上の論点を整理し、①入れ子構造から過程へ、②対立・矛盾からの統合へ、③不可能性から可能性へという3つのパラダイムシフトの観点を抽出し、それらを「神道精神」と重ねて、循環的自己一貫性(Circular Self-Coherence)と統合的に示した。そして、1967年に伊勢神宮を訪れた歴史学者・トインビーが自ら毛筆で書き記した「この聖地に於いて私はすべての宗教の根底的統一性を感得する」との言葉でフォーラムを結んだ。

第2部ではステファン・ブッチ教授が少人数対話形式セッションでさまざまな課題に取り組んだ。参加者アンケート結果から、本学が目指すグローバル人材の育成、文理融合型教育研究に向けた、学びの多い充実したフォーラムであったことがうかがえた。

### 新入生対象防災訓練を実施



4月5日、新入生を対象に防災訓練が行われた。12時40分より指導教員が学生に向けて防災時の行動について説明した。説明は学生手帳に記載されている大地震対応マニュアルに沿って行われ、キャンパスガイドに掲載されている避難経路や消火器、AED、担架の場所などを確認した。続いて、13時に「防災訓練開始アナウンス」が放送されると、同5分に「緊急地震速報」を発報。放送の指示に従い、学生は屋外避難経路を通り第一グラウンドに避難した。小雨の降る肌寒い中ではあったが、参加者全員の無事が確認された。加藤学生部長が講評で「防災は使えて初めて防災になる」との言葉を伝え、大学本部より発信される安否確認メールに必ず返信するなど、実際の災害を想定した行動を呼びかけた。

### 春のオープンキャンパスを開催 3月25日

桜の開花が待ち遠しい3月25日、高校新3年生、新2年生を対象に春のオープンキャンパスを開催した。2度目となる3月の開催ではさまざまなプログラムを実施したことで、付添者を含め多くの来場者に満足いただいた。

学部学科説明会をはじめ、個別相談、「つばさ」の活動紹介、キャンパスツアー、NIPPON発見ツアー、CLL活動報告展示を実施した。初の試みとなった『美術品の取り扱いを学ぼう』と題した体験コーナーでは、掛軸や巻物といった美術品や資料の取り扱い方が説明された。刀剣の手入れ方法の実演も行われるなど、大変好評であった。「つばさ」の活動紹介やCLL活動報告展示は学生



CLL活動について説明する学生

が中心となって実施され、来場者と学生との交流も積極的に行われた。

今後、6月9日(日)、7月7日(日)、8月10日(土)、8月11日(日)、10月27日(日)にもオープンキャンパスを開催する。未来発見セミナーや模擬講義、学食体験など多彩なプログラムを実施する予定だ。



Japan to the NEXT

皇學館大学 予約不要 | 無料

## 未来が広がる スペシャルDAY

<b>6/9</b> sun 13:00-17:00	<b>7/7</b> sun 11:00-16:00	QRコード OPEN CAMPUS 2024
<b>8/10</b> sat 11:00-16:00	<b>8/11</b> sun 13:00-17:00	
		<b>10/27</b> sun 13:00-17:00

**Event information**

皇學館中学校  
◆ オープンスクール 説明会など  
**6/23(日) 9/1(日) 11/3(日)**

◆ 皇中祭(文化祭)  
**11/17(日)**

皇學館高等学校  
◆ オープンスクール  
第1回 **8/31(土) 9/1(日)**  
第2回 **10/12(土)**  
第3回 **11/10(日)**

中・高・大合同企画  
◆ 皇學館 DAY  
**9/16(月・祝)**

場所：三重県文化会館・大ホール  
皇學館高等学校吹奏楽部  
第17回定期演奏会 他

# 皇學館学園報創刊100号記念特集

本紙「皇學館学園報」は今号で創刊100号を迎えました。長年のご愛読に心より感謝いたします。本企画では記念特集として皇學館の歩みを発信してきた20年の軌跡を振り返ります。

## 平成16年9月に第1号を発刊



第1号

皇學館学園報第1号は平成16年9月10日に発行されました。本学では平成24年の「創立百三十年・再興五十周年記念事業」に向け、学内外の方々から激励の言葉とともに多くのご芳志を賜りました。本紙はご賛同

いただいた方々の芳名を掲載すると共に、周年記念事業の進捗状況や研究成果の発信、報告を主な目的に創刊されたのです。当時は「皇學館学園報K-らいいふ(全学

## 第20号で大きくリニューアル



第20号

第20号(平成21年5月25日)から題字デザインの一新や、記事内容についても大幅にリニューアルし、年6回の発行、ページ

数も8ページに増えました。一方で季刊であった「K-らいいふ(全学一体)」は年2回の発行となり、記録性に重きを置いた編集に。その後「K-らいいふ(全学一体)」は第

## 第44号でマイナーチェンジ



第44号(左)と第38号

平成24年4月29日、30日に「創立百三十年・再興五十周年記念行事」が挙行され、第38号(平成24年6月1日)で詳細を報じています。本紙は事業完遂後も学園の広報紙として読み継がれ、第44号(平成25年6月20日)からは編集方針を「建学の精神を礎に「学術研究」「教育・人材育成」「地域貢献」の三本柱をバランスよく伝える」と再定義。フオン

トや紙面レイアウト、色使いをマイナーチェンジしました。

## 時代と共に変化し続ける



第79号

第74号(平成30年6月20日)からは、記事を「地域連携」「アカデミック」「カルチャ―&スポーツ」などのカテゴリーに分け、レイアウトも変更。読みやすさに配慮しました。第79号(令和元年5月31日)で再び季刊となり、第95号(令和5年5月18日)より、読者層の広がりや資源節減の動きに伴い電子配信に一本化。現在は5月号、7月号、9月号、12月号、2月号、K-らいいふ(3月末)の発行予定となっています。創刊から20年。刻々と変化し

続ける時代の中で、伝統を踏まえつつ新しい流れを取り入れ、歩んできた皇學館の「今」を発信してきました。今後も読者の皆さまのご期待に応えるべく、紙面の充実を一層図ってまいります。引き続きご愛読のほど、よろしくお申し込み申し上げます。

## 学園報紙面で振り返る皇學館の歩み

過去記事の中から話題となったニュースやトピックスを取り上げ、ご紹介いたします。



## 教育環境が充実

総合体育館や祭式教室、教育棟、中高武道場といった施設を竣工したほか、学部・学科の新設・改組を行い、生徒・学生たちの学びの環境を着々と整えてきました。



【第21号1面】現代日本社会学部を開設



【第12号1面】高校武道場・中学校特別教室棟が竣工



【第22号1面】現代日本社会学部 宮川泰夫学部長、抱負を語る



【第10号1面】新・祭式教室が竣工



【第8号1面】待望の総合体育館が竣工



【第35号1面】新研究棟(九号館)が竣工



【第28号1面】六・七・八号館(教育研究棟)が完成

## 学園報人物列伝 一覧

No.号	人物	No.号	人物	No.号	人物
1 20	吉田 茂	12 31	澤 瀧 久 孝	23 49	笹 月 清 美
2 21	上 田 篤 年	13 32	廣 瀨 文 雄	24 52	近 藤 聖
3 22	武田千代三郎	14 33	北 岡 西 良	25 55	酒 井 秀 夫
4 23	原 田 敏 明	15 34	安 藤 正 次	26 59	曾 野 勝 巳
5 24	山 田 孝 雄	16 36	清 水 孝 之	27 60	尾 崎 八 束
6 25	坂 村 真 民	17 39	野 間 光 辰	28 63	青 木 紀 元
7 26	足 立 巻 一	18 40	後 藤 丹 治	29 69	福 井 毅 毅
8 27	廣 池 千 九 郎	19 42	倉 野 憲 司	30 74	粕 谷 興 紀
9 28	伊 藤 正 雄	20 45	佐 中 壯	31 82	西 宮 一 民
10 29	平 田 貴 一	21 46	鈴 鹿 三 七	32 90	井 上 頼 文
11 30	千 田 憲	22 47	あ 大 津 有 一	33 94	し じ 重 弘

## こんな記事、シリーズも

伊勢市出身の作家・橋本紡さん著『半月の月がのぼる空』が映画化され、本学での撮影の様子を紹介した21号や学生が記者となって橋本さんと深川栄洋監督に取材した25号が話題となりました。また、20号から始まったシリーズ「皇學館人物列伝」では錚々たる面々が紹介されています。第1回は吉田茂氏でした。

【第21号8面】映画「半月の月がのぼる空」の2シーンが本学で撮影され、学生のべ200名がエキストラとして参加しました。



【第25号4・5面】学生責任編集ページでは「半月の月がのぼる空」原作者の橋本紡さん、深川栄洋監督に学生記者が突撃インタビューを敢行! 記者のひとり、山口麻衣さんは単行本化にあたり伊勢弁を監修しました。

## 学生が大活躍

駅伝競走部や柔道部、硬式野球部等の部活動をはじめ、個人でも全国に名を轟かせた生徒・学生が多数! 皇學館生の活躍が紙面を賑わせました。



【第71号1面】初出場目標達成「十七位」◆秩父宮賜杯第49回全日本大学駅伝対校選手権大会



【第56号8面】創部初! 硬式野球部が明治神宮球場へ 【第57号4・5面】特別インタビュー



【第85号1面】2区川瀬17人抜き区間賞 ◆秩父宮賜杯第52回全日本大学駅伝対校選手権大会



【第90号1面】柔道部女子が3人制で日本一! ◆全日本学生柔道優勝大会(女子第30回)



【第98号2面】「日本一のホームランバッターに」◆村田怜音選手が皇學館史上初のNPB選手に

## 制作ごぼれ話

- 「皇學館人物列伝」の人物をピックアップするのに悩んだことはないが、写真探しにいつも苦労します。
- 高校野球部取材したときのこと。残念ながら試合に負けてしまった部員たち。グラウンドでは気丈に笑顔を見せていましたが、バックヤードでは全員が悔し涙を流しながら監督の話を聞いていました。甲子園で敗れたチームの子が笑っていると、あのときの部員の姿と重なります。
- 就職活動についてインタビューしたとき、国史学科の学生が「授業を通して史資料にあたる習慣が身に付いているので情報を鵜呑みにしたり、噂に惑わされたりしない」と話していました。「本質的な学びの姿勢が育まれている」と感じた取材でした。

### クラスメイトと親睦深め

全学年で春の遠足を実施

絶好の遠足日和となった4月17日、1年生は「明治村」、2年生は「鈴鹿サーキット」、3年生は「ナガシマスパーランド」へそれぞれ遠足に赴いた。生徒の感想を抜粋して紹介する。

#### 百聞は一見に如かず

1年 佐竹大和

私たち1年生は明治村に行きました。一番楽しかったのは、北里柴三郎の研究所で破傷風菌などの細菌を研究した歴史や作業場の雰囲気に触れたことです。明治時代の監獄を見て実際に牢屋に入り、その時の心情を感じることもできました。明治時代は鎖国をやめ、西洋の文化を取り入れ、文明や技術がとても進歩した時代だと中学校の歴史の授業で学んだけれど、具体的にどう変わったのかは教科書を読んだり話を聞いたりしただけではいま理解できていませんでした。しかし「百聞

は一見に如かず」との言葉の通り、木や石の壁が主流だった江戸時代の家と違い、レンガなど赤みがかった石が使われていて、華やかになったと感じました。来年の遠足も楽しかったと思える思い出をつくりたいです。



#### スタートダッシュを決められた

2年 西村仁伽

私たち2年生は鈴鹿サーキットに行きました。学年が上がり、クラス替えによってこれまでとは違う環境になり、新しくこれから一緒に学校生活を送る友達との最初の行事がとても楽しみでした。

に乗りました。中でも、友達と競い合ったレースはとても楽しかったです。楽しい時間というのはすぐ過ぎてしまい、あっという間に終わってしまいました。



いざ遠足へ行ってみると、やはり新しく関わる人との交流はとても楽しかったです。バスでの移動では話が弾み、移動時間が苦ではなく、楽しい時間でした。鈴鹿サーキットに着くと、新しいクラスで集合写真を撮りました。みんなで撮った写真はいい思い出になりました。園内ではたくさんのアトラクション

今回の遠足で友達との思い出をたくさんつくれて、2年生の最初のスタートダッシュを決めることができよかったです。

#### あと3時間は欲しかった

3年 大松汐風

私たち3年生はナガシマスパーランドへ遠足に行きました。1、2年生のとき、羨ましがっていたナガシマスパーランドへようやく行くことができ、とてもうれしい気持ちでいっぱいでした。何よりも楽しみにしていたのはスチールドラゴンでした。小さい頃からずっと乗っていたスチールドラゴンにとうとう乗ることができるととてもワクワクしていたけれど、やはり、自分と同じ気持ちの人が多く、ものすごい人が並んでおり、ずっと楽

しみにしていたスチールドラゴンに乗る夢は叶いませんでした。それでも、ナガシマスパーランドにはほかに白鯨やアクロバット、嵐などのジェットコースターがあり、久々の遊園地に大興奮しました。本当にあっという間に4時間が過ぎ、あと3時間は欲しかった。そんな思い出の残った遠足でした。



## 288名が入学

皇學館高等学校 第62回入学式

令和六年度入学式



厳粛な雰囲気の中、執り行われた

4月9日に皇學館高等学校第62回入学式が大学記念講堂で執り行われ、288名の生徒が入学を許可された。

芝崎俊也学校長は「建学の精神のもと、清明正直な人格と、豊かで高潔な日本人としての精神を備えた国際人の育成」との学校目標に触れつつ、「隣接する皇學館大学の深い学びを高校生段階で体感することができる」など、全学一体で展開している特色ある教育活動について紹介した。続けて、「皆さんにとって高校への入学は中学校生活におけるひとつのゴールであったと思う」としながらも、「本校に入学した『今』この時から次のステージに向け新たなスタートを切った現実に向かってしっかりと向き合い、自らの意識を切り替えることが大切」とメッセージを送った。

翌10日に実施された対面式では総務委員長の山中美璃依さんが「目標を持つことは、皆さんのこれからはじまる高校生活をより一層充実させることにつながるはず。私たち在校生は新入生の皆さんと楽しく充実した高校生活を送れるよう全力でサポートしていきます」と温かい言葉で迎えた。新入生代表の山下輝之さんは「ここにいらっしやる2、3年生の先輩方と一緒に一生懸命勉強やクラブ活動に励みたい」とこれから始まる学校生活への意気込みを込め、挨拶した。



新入生代表の山下さん

### 全学年縦割り班で総合フィールドワークを実施

4月17日、「地元伊勢の文化や風土について深く知り、神宮とSDGsとの関わり方を学ぶ」とのテーマで、全学年縦割り班による総合フィールドワークを実施した。当日は3グループに分かれ、「猿田彦神社」「俵田屋」「旧林崎文庫」を訪れた。



俵田屋で熱心にメモをとる生徒たち

猿田彦神社では正式参拝を実施するとともに、御祭神や神社の由緒に関する講話を聞き、知見を深めることができました。また、神棚などの神具を取り扱う俵田屋ではその材料となる「檜」の下処理工程をはじめ組み立て工程・仕上げ工程の順に説明いただき、作業場の様子を見学した。さらに旧林崎文庫では設置された碑文などを通して学問に励んだ偉人たちの足跡をたどることができた。歴史を溯れば、皇學館がこの林崎文庫に開設され、林崎文庫がその前身であったことを考慮すれば、生徒たちにとって非常に意義深い学習となったといえる。以下に生徒の感想を抜粋して紹介する。

- 猿田彦神社では、お祀りされている神様が天照大御神の天孫であることやみちびきの神社だということなど、たくさんの歴史について学ぶことができました。俵田屋では担当者様の話を聞き、何が作られているのかについて学びました。神棚などを作っているすごいと思いました。旧林崎文庫ではとても長い階段が印象的でした。(1年生)
- 俵田屋での担当の方が機械を使って木をあっという間に削る様子は、見えていて気持ち良かったです。旧林崎文庫は雰囲気がとても古風で落ち着きました。俵田屋では神棚を作っ

- ている会社と聞き和のイメージがありましたが、ビームスという横文字の企業と連携もしていて和洋折衷だと思いました。(2年生)
- 猿田彦神社では猿田彦大神と大田命、アメノウズメ様について教えていただきました。猿田彦大神は2mもの高身長で顔が赤いそうですが、瓊瓊杵尊とその他の神々を地上に案内するため7万年も待つとはとても壮大な話だと思いました。アメノウズメ様は縁結びの神様だということも知ることができ、いろいろな神様について学ぶ貴重な機会となりました。(3年生)

### 真新しい制服に身を包み、23名が入学

皇學館中学校 第46回入学式

第46回皇學館中学校入学式が、4月9日の午後からセミナーホールで挙行された。

新入生23名を前に芝崎俊也学校長は「皇學館中学校は神宮をいただくこの伊勢の地で、日本の伝統と文化の中心にある神道に基づき、清く、明るく、正しく、素直な精神を身につけた生徒をすべての教育活動を通して育てています」と述べ、「皆さん一人ひとり、これからはじまる学校生活の中で本校の伝統と流れる精神に触れてもらいたいと思います。そして、本校の卒業生がよりよい社会づくりに力を尽くしてきたこと、また力を尽くしていることをしっかりと自覚し、自分はどういう力を発揮していくことができるのか、考えていってもらいたい」と期待を込めた。



宣誓する高士草太さん

対面式は翌10日に行われた。新入生は2、3年生の先輩たちとの初めての対面とあって緊張した面持ちでのスタート。しかし、校友会歓迎の挨拶に始まり、本校に関するクイズに先輩たちと取り組む中で気持ちがほぐれたのか、たちまち賑やかな交流の場となった。

15日までの4日間でオリエンテーションを実施し、皇學館の生徒としてあるべき姿や学習および生活についてのきまりや向き合い方などを学び、皇學館中学生としての一步を踏み出した。また、オリエンテーション2日目には神宮参拝を実施した。晴天にも恵まれ、生徒たちは精悍な顔つきで日頃の感謝とこれからの誓いを込めて神宮に拝した。



対面式



# Active Student

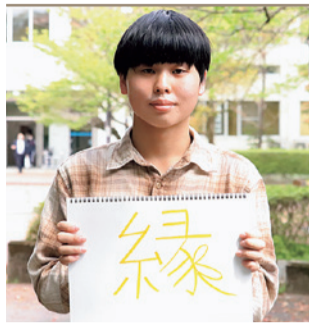
高い志とチャレンジ精神をもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

企画特別

## 新入生決意の一字

「皇學館大学生」という新たなステージに立った新入生たち。未来に向け一歩を踏み出した彼らに、学生生活に向けた抱負を語っていただきました。

● 志望理由 ◆ 皇學館大学の印象



神道学科  
宮田 一秀

皇學館大学に入学したこと、地域活動や神務実習で会う方々、今までもこれからも心の支えになってくださる神様など、さまざまな縁を大切に、楽しく実りある大学生を送りたい。

- 日本に生まれたことを日本の文化や物語に触れるチャンスと捉え、それに幼い頃から親しんできた。神代の昔から恵みを与えてくださる神様のために自分ができることをしたい。
- ◆ 神宮のもとで神道を学べる環境を魅力的に思うと同時に、学生の心に寄り添おうとする先生方の熱意を強く感じた。



国文学科  
下浦 敦士

大学4年間で部活・ゼミ・就職先の社会人の方・バイトなどこれまで以上に人との関わり、「繋がり」が多くなり、大事にしないとけないと思うから。

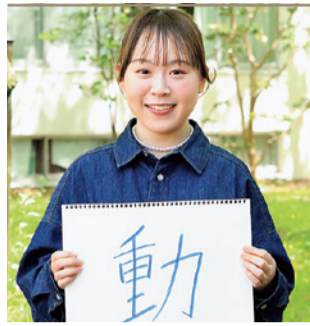
- 教員採用率が高かったため。野球部のリーグ成績が良かったため。
- ◆ 教員免許だけでなくさまざまな分野の免許が取得できる。就職を目指している人には就職先の候補がたくさんあり、就職に強い印象。



国史学科  
井土井 崇

大学生活を有意義なものにするため、ゼミやバイトなど今まで経験したことがないことに挑戦し、将来に生かしたいです。

- 将来教員になりたいと考えています。皇學館大学は県内教員採用率が高く、教員になるためのサポートが充実していると考え、志望しました。
- ◆ 教員志望の学生が多く、同じ夢を目指す者として刺激を受ける機会が多いです。



コミュニケーション学科  
山本 志音

今までは新しいことに挑戦する時、周りの目や失敗を恐れていましたが、これからは深く考え過ぎず行動したいです。

- オープンキャンパスに参加したとき、日本の歴史や文化を英語で説明する能力を身に付けられると聞きました。私の住んでいる明和町齋宮の魅力が日本だけでなく、海外の人にも伝えたいと思います。
- ◆ 学生と先生との距離が近く、気軽に相談できることがよいと思いました。



教育学科  
植田 真帆

学業だけでなく、さまざまな事に挑戦し、皇學館大学で光りたいと思うから。

- 将来、数学の教員を目指していて、本学の数理教育コースの理念にとっても合っていると思ったからです。また、皇學館大学は手厚いサポートがあり、地元の教員採用率もトップの実績があるからです。
- ◆ 自然豊かで地域の人々との交流が盛ん。



現代日本社会学科  
松田 一華

勉強はもちろん、部活動やプライベートを充実させたり、さまざまなことに挑戦し、多くの人と出会い、何事も全力で楽しめる大学生活を送りたいです。

- 地域に貢献できる公務員になりたいから。
- ◆ 勉強も運動も両立できそうな、活気あふれる大学。

### 部活動・同好会ファイル No.1

本学では現在43のクラブと3つの同好会が活動しています。本コーナーでは注目の部活動・同好会を取り上げ、ご紹介します。

### 雅楽部

Q 普段の練習内容を教えてください。  
実際に奉納するときは暗譜しなければいけないので、練習時は楽譜を見ながらみんなで歌い、曲を覚えます。その後、鳳笙、箏、龍笛に分かれ各自で吹きます。春期は1年生に基礎を教えることが多いです。

Q 楽器は選べるのですか？  
はい、希望の楽器を選ぶことができます。

Q 指揮者がいない中で、どのように音を合わせているのですか？  
「越天楽」の場合は鳳笙の音を基準に箏、龍笛が入っていきます。互いの音を目印にして演奏するので、自分だけじゃなく、他の人の音も覚えることが大切です。

Q 難しい点は？  
箏と龍笛は最初音を出せない人がほとんどです。鳳笙は吹けば音は出ますが、リズムを保つことが難しく、指の動かし方も覚えなければいけません。どの楽器も音が目立つので、少しずれただけでもすぐわかってしまいます。

Q 雅楽部に入ってよかった点は？  
伝統のある部なので、神社にご奉仕や実習に行った際、雅楽部に入っているとわかる共通の話題で盛り上がりやすくなり、話しかけられたりします。最初はわからないことだらけですが、段々吹けるようになり周りとの合わせられるようになってくると、演奏者の一人として一体感を感じ楽しくなってきます。

Q 雅楽をよく知らない人に魅力を伝えるなら？  
雅楽は弦・管・打楽器で編成されるため「世界最古のオーケストラ」と呼ばれています。演奏曲を知らなくても楽器一つひとつが特徴的なので見ているだけで楽しめると思います。

雅楽部は御神前に奉納するため、雅楽の演奏技術を習得するとともに、敬神の念を深め、それにふさわしい礼節を身に付け互いに研鑽することを理念に活動しています。主に龍笛、箏、鳳笙の三管の稽古をしており、楽曲に合わせて打ち物や弦物の稽古も行います。また、舞の稽古も行っています。

部長	板井 正齊
副部長	長谷川 伶 高野 裕基
部員数	23名(4年生7名、3年生3名、2年生2名、1年生11名)
活動日時	月～木曜日…17:00～19:00 土曜日…不定期
活動場所	祭式教室

#### 実績(令和5年度)

- 神宮奉納演奏会
- 松尾大社「還幸祭」
- 「神部の祈り」御田植祭
- 明和町齋王祭り
- 大学祭祭典・ステージ記念式典
- 倭姫宮御鎮座100周年記念式典
- 新穀感謝祭典式
- 定期演奏会 など



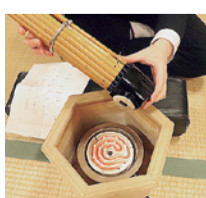
紹介してくれた委員長 三浦和真さん(神道3)



倉陵祭(R5)の様子。女子は1年生から、男子は3年生から舞を習う



鳳笙、箏、龍笛の3種に分かれて練習する



鳳笙は呼吸によって内部が結露しやすい。水分を含んだままにしておくと壊れる原因になるので、電気コンロであぶり水分を飛ばす